

まゆだま 通信

News Letter

文部科学省 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業 (特色型)

発行
国立大学法人群馬大学
男女共同参画推進室

〒371-8510
群馬県前橋市荒牧町 4-2
TEL:027-220-7146
FAX:027-220-7143
mail:kyodo-sankaku@jimugunma-u.ac.jp
HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/



2018.3

vol.16

群馬大学ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業 「まゆだまプラン-アドバンスト」キックオフシンポジウム 「ダイバーシティ研究環境実現に向けた意識改革」

平成29年11月17日に、「まゆだまプラン-アドバンスト」(群馬大学ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業)開始を記念したシンポジウムを、ミュージックホールにて開催しました。

平塚浩士学長の開会挨拶の後、工藤貴子男女共同参画推進室長から群馬大学の女性研究者支援に関する取組紹介があり、続いて、既にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業で成果をあげている大学から講師を招いての講演が行われました。岩手大学理事・男女共同参画推進室長の菅原悦子氏による「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導～岩手大学男女共同参画の取組から～」、長崎大学副学長・ダイバーシティ推進センター長の伊東昌子氏による「大学の躍進にむけたワーク・ライフ・バランスの実現」と題した講演では、いずれも各大学の真摯で示唆に富んだ取り組みが紹介され、参加者は大いに刺激を受けました。また、シンポジウムの開始前後には、会場外のホールで、群馬大学研究活動支援制度利用者による研究紹介のポスターセッションが行われました。20点のポスターを展示し、発表をとおして貴重な交流の機会となりました。その後、シンポジウム講師の方々を囲み、大学幹部、男女共同参画推進室員、ポスター発表者などで情報交換会を開催しました。



第2回ぐんまダイバーシティ 推進地域ネットワーク会議開催

2017年11月17日に各会員機関代表者7名が出席して、第2回ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク会議が開催されました。今回、新たに群馬医療福祉大学がネットワークに加わり、賛同機関はこれで14機関となりました。会議ではまず、設置要項について、審議されました。その中で副会長の新設の提案が認められ、高崎経済大学の秋朝礼恵氏が副会長に決定しました。引き続き、今後のネットワークの活動について提案、議論されました。その結果、本ネットワークとしてぐんま女性活躍大応援団、ぐんま男女共同参画センターへの団体登録が了承されました。更に女性研究者、女子学生交流の会やライフステージの会、情報共有などについて議論され、ネットワークとしての交流を深めることが確認されました。



理工学府女子学生対象 まゆだまレクチャー開催

まゆだま（男女共同参画）レクチャー「今 女性が幸せに生きる為に～大学院という選択～」が、11月29日に開催されました。レクチャーは、「輝き方、いろいろ」群馬県下水道総合事務所水質係・今井克江さん、「研究室生活のすすめ」分子科学部門助教・杉石露佳先生、「～幸せプロデュース計画～あなたの人生で、価値あるアイテムを増やす方法」男女共同参画推進室両立支援アドバイザー・中村治美さん、「進学



について考えたいこと知っておきたい事」大学院博士前期課程電子情報・数理教育プログラム2年・館野友貴美さんの4件で行われました。講演は、今井さんは子育てをしながら働く女性、杉石先生は若手女性研究者、中村さんはキャリア形成アドバイザー、館野さんは現役大学院生のそれぞれ立場からの話がありました。どの講演も興味深く、また、思わず笑ってしまう内容もあり、男子学生にも聴いてもらいたいものでありました。聴講者は20名強でアンケートを実施しました。概ね、好評で、大学院への進学をためらっていた学生には、良い指針になったと思われました。今後も、女子学生のキャリアアップのための企画を催していきたいと思います。

第5回全学ランチミーティング開催

昨年12月12日に第5回まゆだま会全学ランチミーティングが桐生キャンパス近郊のベーカリカフェ「レンガ」にて開催されました。年末のあわただしい時期にも関わらず、平塚学長、本多理事、関理工学府長、石間副理工学府長をはじめ総勢20名の方にご参加いただき、落ち着いた雰囲気の中、軽食をとりながら交流を深めました。参加者からは「学長をはじめ普段交流の機会がない他部門の方々と知り合いになれてよかった」「研究や教育の話だけではなく子育ての話ができたのは良かった」等のご意見をいただきました。時間とスペースが限られていたため全員の方とお話しできなかったのが残念でしたが、今後は男女問わず職員や大学院生にも広く周知し、大学全体で男女共同参画を考える企画を計画していきたいと考えています。



平成29年度「医学生・研修医をサポートするための会」を開催

平成29年12月5日、群馬県医師会と協力し「医学生・研修医等をサポートするための会」を開催いたしました。石崎医学系研究科長のご紹介で、藤巻わかえ氏（女子栄養大学栄養学部教授）、藤巻高光氏（埼玉医科大学脳神経外科教授）をお招きし、「ワークライフシナジーでキャリアを磨こう!!」をテーマにご講演いただきました。参加者133名（女性45名、男性88名、うち医学生112名）に、それぞれ「男性医師を夫にもった小児科医からのエール」、「女性医師を妻にもった脳外科医からのエール」を熱くお伝えいただきました。さらに、次世代の医療を取り巻く社会環境への活動内容や提言もいただきました。「掛け算の関係性」で、お互いに尊重し合い、生活も仕事もされている理想的なご夫妻。その形にするためには、長い年月と試行錯誤とがあったとのご講演は、多くの参加者にとって大変励みになったと思います。



第5回研究力アップ講座開催

前日の雪で心配がつる1月23日（於桐生）、24日（於荒牧・昭和）の2日間、文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業として、資料作成のエキスパートである片山なつ氏をお招きし、研究力アップ講座を開催いたしました。「脱自己流！デザインの基本ルール」と題した本講座は、プレゼンテーションにおけるフォントの選び方から、論理的なレイアウトや配色の方法まで、デザインの基本ルールを学ぶ好機となりました。また添削希望者の資料を使ったBefore-Afterの提示では、片山氏による目の覚めるようなデザイン力を実感することができ、受講者からは感嘆の声が漏れるほどでした。3キャンパス合わせて119人にご参加いただき、盛況のうちに終えることができ、また大変意義深い講座であったというお声をたくさん頂戴することができました。今後もみなさまと一緒に学んでいけるような企画をご提供できますよう励んでまいります。



荒牧キャンパス



桐生キャンパス



昭和キャンパス

石崎医学系研究科長インタビュー ～男女共同参画を語る～

インタビューー 石崎 泰樹 医学系研究科長

インタビュアー 本多 悦子 学長特命理事

工藤 貴子 男女共同参画推進室長



本多：この度、医学系研究科で男女共同参画推進委員会を発足していただけるということで、委員会も含めて男女共同参画の現状についてお話しいただきます。

石崎：現状といたしましては、女性研究者の上位職への登用が他の学部等に比べて、少し遅れを取っているということで、是非、教授・准教授・講師等への登用を進めていきたいと考えております。やはり、女性研究者が仕事に取り組めるような環境づくりが一番大切かと思えます。ライフイベント、妊娠、出産、育児のときにもキャリアが途切れないような環境をつくっていきたく考えています。具体的には、現状をより詳細に把握し、どのように改善していくかということを目指して、新たに、医学系研究科で男女共同参画推進委員会を立ち上げることにしました。

研究科長の私をはじめ、総勢13名のメンバーです。神経内科の副研究科長（パートナーは神経内科医）、ダイバーシティに興味をお持ちの医学哲学・倫理学、女性の研究者の占める割合が多い循環器内科学、病理学、麻酔学からそれぞれ教授1名、生体調節研究所からは副所長。女性は5名で、総合医療学と医療人能力開発センターの講師2名、生体調節研究所に女性として初めて着任された教授1名、今後活躍が期待される准教授1名、重粒子線医学研究センターから助教1名。そして、昭和地区総務課長も加わりました。

本多：病理学講座は、女性が多いのですか。

石崎：たしか、大学院生は女性の方が多いと聞いております。臨床医に比べると、ライフイベントに対応しやすいので、女性医師、女性研究者が多い。附属病院の病理部でも女性の准教授が活躍しています。

本多：最初にお話がありましたように、まずは現状の共通認識を持っていた上で、そこから何をしていくかを考えていただけるかなど。魅力的な方がメンバーになってくださり、大変期待しております。

工藤：次に先生のプライベートについて少し伺わ

せてください。お連れ合い様も医師でいらっしゃるかと伺いました。きっとおうちでも男女共同参画がかなり進んでおられるのではないかと思いますのですけれども。

石崎：実は私の母親も高校教師をしていました。母親が働いていた時代は『女性は家庭にいるべきだ』というような感じで。それで随分母も苦労したのではないかと思います。

でも、僕はそのような母親に育てられたので、女性が職業を持つことは当然のことだと思っていました。全然女性が働くことに対しては抵抗がなかったのです。ですから、結婚するときもやはり働いている女性がいいなと思って結婚しました。

工藤：ということは、家庭のいろいろなことをお二人で分担されている感じですか。

石崎：そうですね。僕としては協力したつもりです（笑）。子供二人は保育園に預けていたのですが、送るときは私が行って、子供が熱を出したり怪我したりしたときは私が病院に連れて行ったり家で面倒を見たりすることもありました。土曜日は子供を研究室に連れて行くことも多かったです。

本多：最後に、群馬大学全体として、男女共同参画のあり方や進み方について感じていらっしゃることを。

石崎：もちろん同じ能力、同じ業績であれば、男女は平等であるべきです。ライフイベントがあったときに、女性が不利にならないような環境を、群馬大学では作ってあげるべきではないかと思っています。

先日の教授会で「男女共同参画推進委員会を発足いたします」と言ったら、「今の時代、『ダイバーシティ』という言葉の方がいいのではないか」とご指摘がありました。LGBTの方への配慮も考えていきたいですね。

本多：これから重点学部ということで意欲的に進めていただき、本当にうれしく思っております。